

協議事項説明書

《協議事項》

【議案第 1 号】地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）の事業評価
について

《回答事項》

【資料 2】「地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）」、【資料 3】「事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について（案）」、及び【資料 4】「帯広市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要（案）」について、承認または不承認の回答をお願いいたします。

帯広市内農村部において、帯広市の委託業務として運行されている「大正地区乗合タクシー（あいのりタクシー）」及び「川西地区乗合バス（あいのりバス）」について、国の補助制度を活用しながら運行の確保・維持を図るため、「帯広市地域内フィーダー系統確保維持計画」を策定し、運行事業を実施しております。

本計画に基づく事業については、事業実施状況についての事業評価（自己評価）を行い、所定の様式（【資料 2～【資料 4】の様式）により帯広運輸支局への報告及び帯広市ホームページ等での公表を行うこととなっております。

つきましては、事務局において【資料 2】～【資料 4】のとおり事業評価案を作成いたしましたので、内容をご確認いただき、承認または不承認のご回答をお願いいたします。

※議案についてご意見などございましたら、併せてご回答願います。

※いただきましたご意見等を踏まえ、事務局において必要に応じて修正を行い、後日結果についてご報告いたします。なお、内容の修正につきましては、議長にご一任くださいますようお願いいたします。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名： 帯広市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大正交通有限会社	帯広市街地便 大正地区～愛国町～帯広厚生 病院	地区内の町内会における会合に 訪問して利用方法の周知を行うな ど、利用促進に向けた取り組みを 実施した。	A	計画通り事業は適切に実施 された。	B 地域の高齢者・学生の移動手 段として利用されているが、想 定していた利用者数を下回り、 年間利用者数は目標1,934人 (1便あたり2.2人)に対し1,819人 (1便あたり1.9人)であった。	地域で開催される会合などにおい て、参加者とのコミュニケーション を通じたニーズの把握や利用促進 を図るなど、利用者増加に向けた 取り組みを継続して実施する。
大正交通有限会社	大正地区内巡回便 大正地区	地区内の町内会における会合に 訪問して利用方法の周知を行うな ど、利用促進に向けた取り組みを 実施した。	A	計画通り事業は適切に実施 された。	A 地域の高齢者・学生の移動手 段として利用されており、年間 利用者数は目標463人(1便あ たり1.2人)に対し630人(1便あ たり1.2人)であった。	地域で開催される会合などにおい て、参加者とのコミュニケーション を通じたニーズの把握や利用促進 を図るなど、利用者増加に向けた 取り組みを継続して実施する。
毎日交通株式会社	八千代線 八千代地区～川西市街～帯広 厚生病院	利用者宅へ訪問して利用方法など を説明するなど、利用促進に向け た取り組みを実施した。	A	計画通り事業は適切に実施 された。	A 地域の高齢者・学生の移動手 段として利用されており、年間 利用者数は目標4,790人(1便あ たり3.8人)に対し5,183人(1便あ たり3.2人)であった。	地域で開催される会合などにおい て、参加者とのコミュニケーション を通じたニーズの把握や利用促進 を図るなど、利用者増加に向けた 取り組みを継続して実施する。
毎日交通株式会社	戸蔭線 戸蔭地区～川西市街～帯広厚 生病院	利用者宅へ訪問して利用方法など を説明するなど、利用促進に向け た取り組みを実施した。	A	計画通り事業は適切に実施 された。	A 地域の高齢者・学生の移動手 段として利用されており、年間 利用者数は目標3,759人(1便あ たり3.1人)に対し4,108人(1便当 たり3.8人)であった。	地域で開催される会合などにおい て、参加者とのコミュニケーション を通じたニーズの把握や利用促進 を図るなど、利用者増加に向けた 取り組みを継続して実施する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	帯広市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>帯広市は北海道東部の十勝地方のほぼ中央に位置し、面積619.34平方キロメートル、人口は約16万2千人の農業を主要産業とする十勝地方の中心都市である。</p> <p>市内の公共交通機関は、市街地においては、十勝バス株式会社及び北海道拓殖バス株式会社が路線バスを運行しており、通学や通院、買物等で利用する学生や高齢者等にとって重要な交通機関となっている。農村部においては、帯広市の委託により大正交通有限会社が予約式デマンド型交通である大正地区乗合タクシー(大正地区内巡回便、帯広市街地便)を、毎日交通株式会社が同じく川西地区乗合バス(八千代線、戸蔭線)を運行しており、定時定路線の路線バスが存在しない農村部において、市街地と農村部を結ぶ移動手段として、生活に欠かせない交通機関となっている。</p> <p>特に農村部の予約式デマンド型交通は、自家用車を運転できない高齢者や通学利用の中学生を中心に安全・安心な地域の公共交通として浸透しているが、広大な運行区域をカバーするため経費が営業収益を大きく上回る状況にある。今後においても、地域住民の買物や通院などの日常生活の移動確保や地域間幹線系統等との接続による広域的な移動支援などを図るため、帯広市内における生活交通手段を維持・確保しつつ、収支改善に向けた利用者増加の取り組みを進めながら、住民の生活の足としての公共交通を維持していく必要がある。</p>

帯広市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

帯広市は北海道東部の十勝地方のほぼ中央に位置し、面積619.34平方キロメートル、人口は約16万2千人の農業を主要産業とする十勝地方の中心都市である。

市内の公共交通機関は、市街地においては、十勝バス株式会社及び北海道拓殖バス株式会社が路線バスを運行するほか、農村部においては、大正交通有限会社及び毎日交通株式会社が予約式デマンド型交通である大正地区乗合タクシー・川西地区乗合バスを運行しており、定時定路線の路線バスが存在しない農村部において、市街地と農村部を安心・安全に結ぶ移動手段として、生活に欠かせない交通機関となっている。しかし、広大な運行区域をカバーするため経費が営業収益を大きく上回る状況にあることから、地域住民の買物や通院などの日常生活の移動確保や地域間幹線系統等との接続による広域的な移動支援などを図るため、帯広市内における生活交通手段を維持・確保しつつ、収支改善に向けた利用者増加の取組みを進めながら、住民の生活の足としての公共交通を維持していく必要がある。

生活交通確保維持改善計画の目標

- ①帯広市街地便の年間利用者数 令和7年度 1,934人(1便あたり2.2人)
- ②大正地区内巡回便の年間利用者数 令和7年度 463人(1便あたり1.2人)
- ③八千代線の年間利用者数 令和7年度 4,790人(1便あたり3.8人)
- ④戸蔭線の年間利用者数 令和7年度 3,759人(1便あたり3.1人)

令和7年度事業概要

- 帯広市街地便 運行区域:大正地区～愛国町～帯広厚生病院
運賃:400～1,000円、平日(月～金)運行 1日7便
実績運行回数:923回
- 大正地区内巡回便 運行区域:大正地区
運賃:500円 平日(月～金)、土曜運行 1日5便
実績運行回数:493回

地域公共交通の現況

- ・JR根室本線(帯広駅、柏林台駅、西帯広駅)
- ・路線バス
十勝バス(株)、北海道拓殖バス(株)市内45系統
- ・農村部デマンド交通
大正交通(有)、毎日交通(株)市内4系統

協議会開催状況

- 【令和7年3月28日(令和6年度第3回)】
・路線網再編分科会での協議状況について 他
- 【令和7年5月20日(令和7年度第1回)】
・十勝バス6月2日ダイヤ改正に関して
- 【令和7年6月26日 令和7年度第2回会議】
・令和6年度事業報告 他
- 【令和7年10月24日 令和7年度第3回会議】
・北海道拓殖バス(株)が運行する乗合バスの運賃に係る意見募集について
- 【令和8年1月15日 令和7年度第4回会議】
・地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)の事業評価について

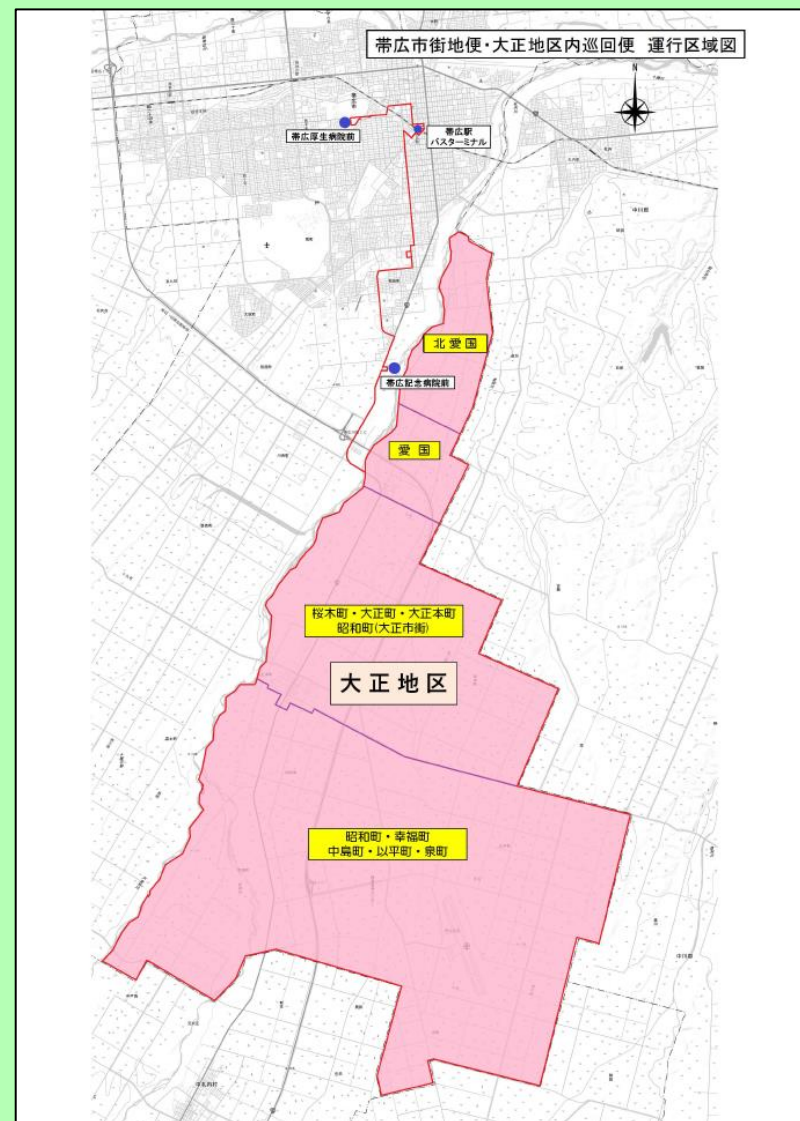
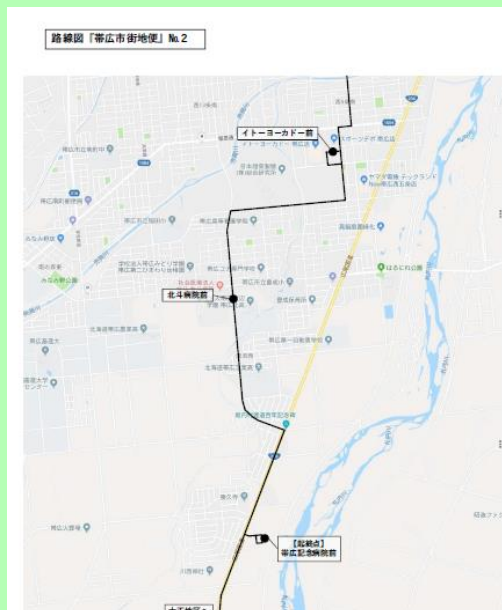
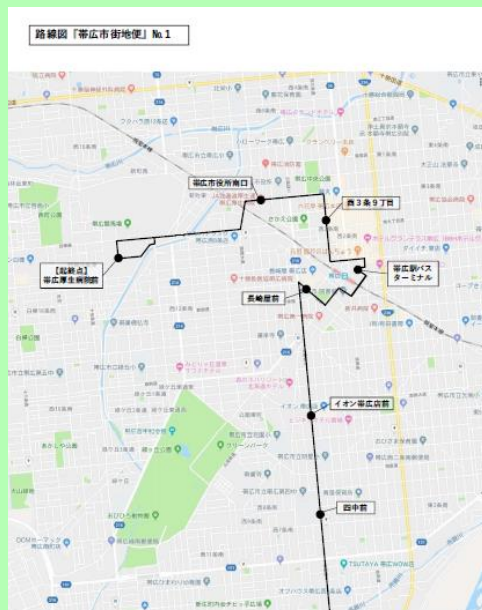
- 八千代線 運行区域:八千代地区～川西市街～帯広厚生病院
運賃:300～1,000円、平日(月～金)運行 1日7便
実績運行回数:1,579回
- 戸蔭線 運行区域:戸蔭地区～川西市街～帯広厚生病院
運賃:300～1,000円、平日(月～金)運行 1日7便
実績運行回数:1,077回

令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・利用登録者への登録証・時刻表収納ポーチの配布
- ・帯広市及び運行事業者ホームページでの周知
- ・インターネット予約受付の実施
- ・地域の会合での利用方法等の周知

2) 運行系統

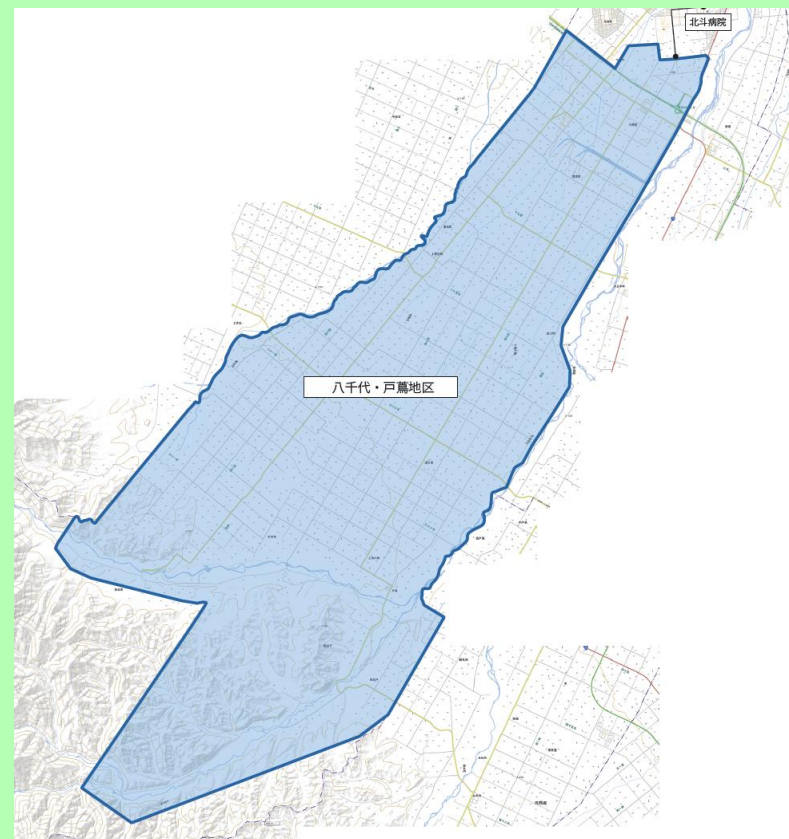
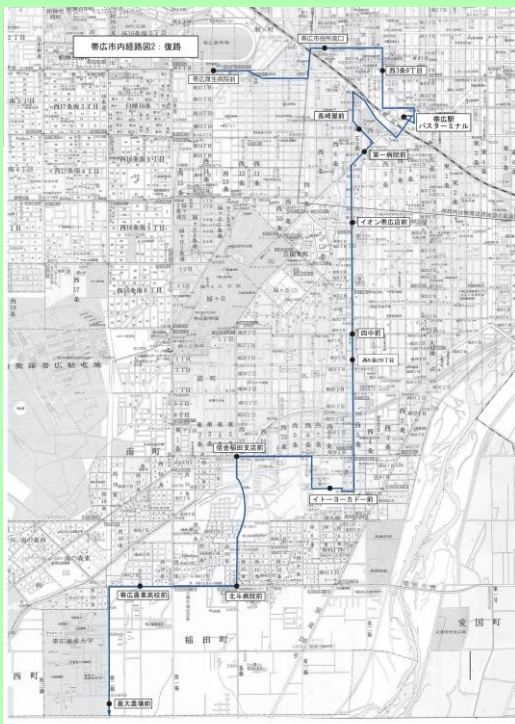
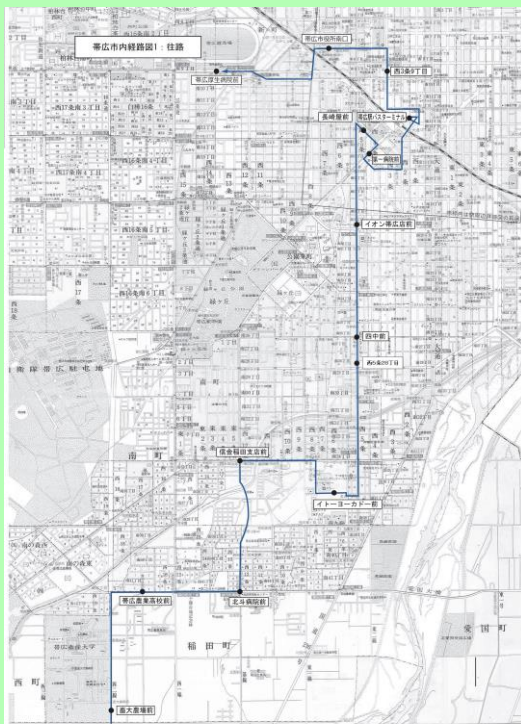


令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

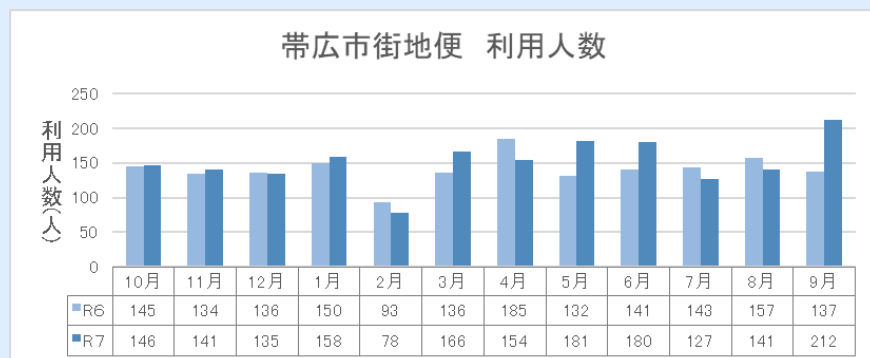
- ・地域の中学校との連携による利用者登録・予約にかかる負担軽減(学校を通じた予約)
- ・帯広市及び運行事業者ホームページでの周知
- ・インターネット予約受付の実施

2) 運行系統



3) 利用実績

●帯広市街地便

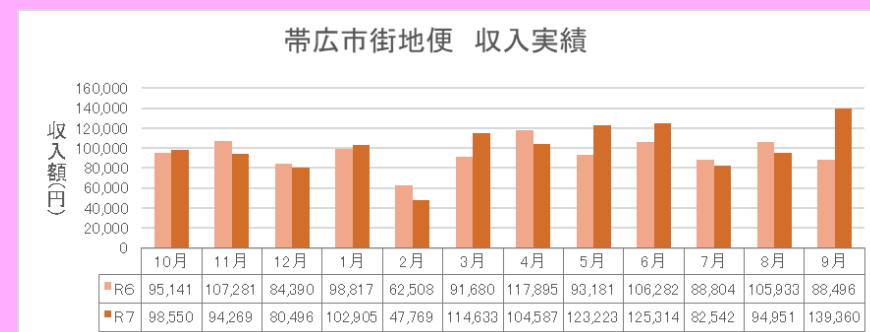


・R6(R5.10~R6.9) : 1,689人

・R7(R6.10~R7.9) : 1,819人

4) 収入実績

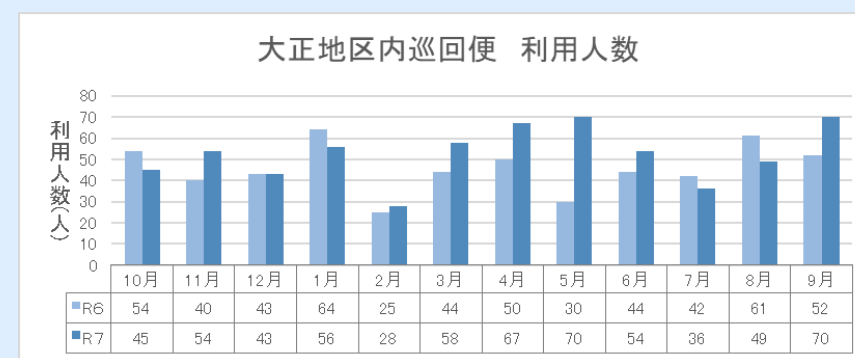
●帯広市街地便



・R6(R5.10~R6.9) : 1,140,408円

・R7(R6.10~R7.9) : 1,208,599円

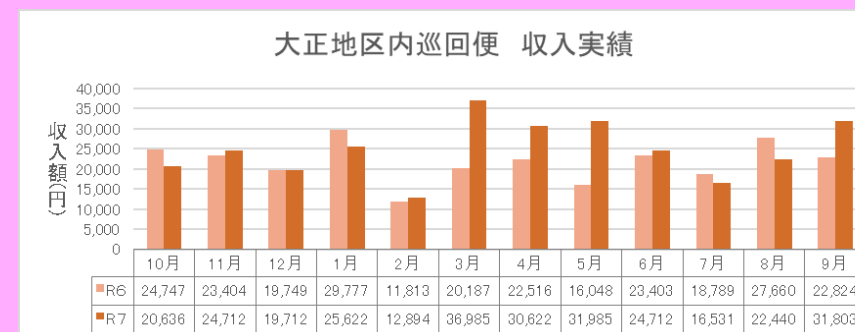
●大正地区内巡回便



・R6(R5.10~R6.9) : 549人

・R7(R6.10~R7.9) : 630人

●大正地区内巡回便

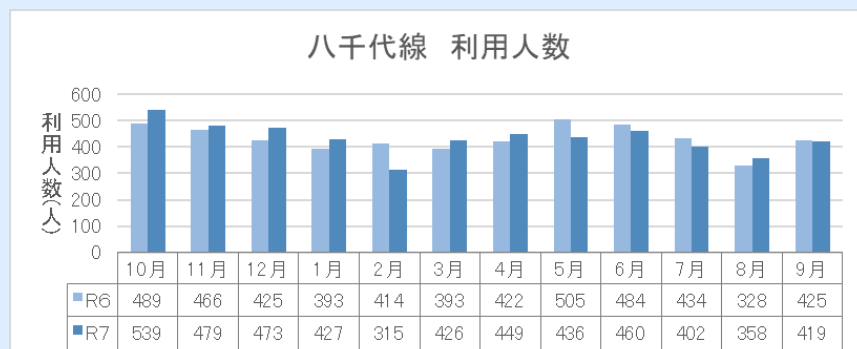


・R6(R5.10~R6.9) : 260,917円

・R7(R6.10~R7.9) : 298,654円

3) 利用実績

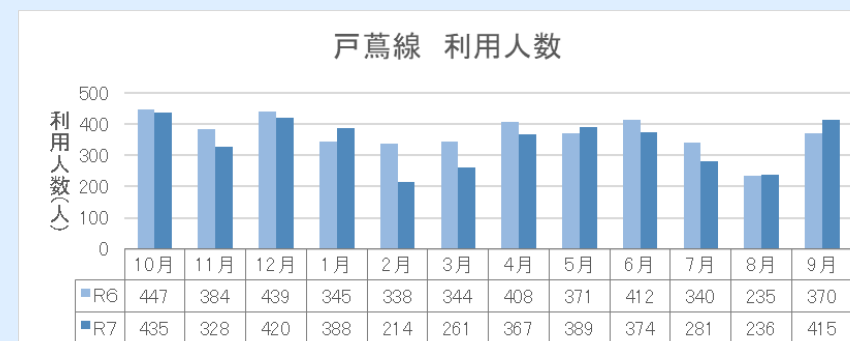
●八千代線



・R6(R5.10~R6.9) : 5,178人

・R7(R6.10~R7.9) : 5,183人

●戸蔦線

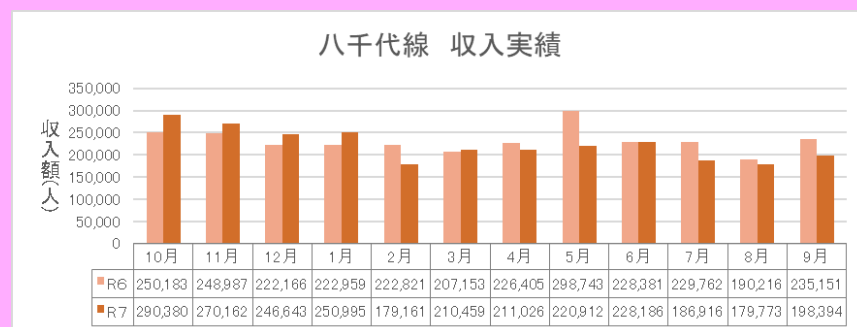


・R6(R5.10~R6.9) : 4,433人

・R7(R6.10~R7.9) : 4,108人

4) 収入実績

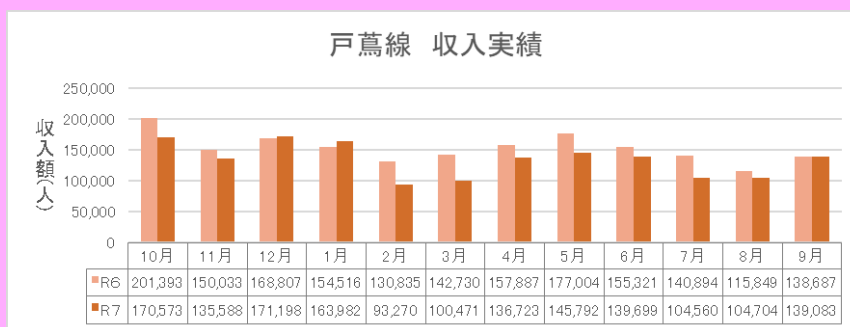
●八千代線



・R6(R5.10~R6.9) : 2,782,927円

・R7(R6.10~R7.9) : 2,673,007円

●戸蔦線



・R6(R5.10~R6.9) : 1,833,956円

・R7(R6.10~R7.9) : 1,605,643円

5)事業実施の適切性

帯広市街地便、大正地区内巡回便、八千代線、戸蔦線
ともに計画通り事業は適切に実施された。

6)目標・効果達成状況

【帯広市街地便】
地域の高齢者・学生の移動手段として利用されているが、想定していた利用者数を下回り、年間利用者数は目標1,934人(1便あたり2.2人)に対し1,819人(1便あたり1.9人)であった。

【大正地区内巡回便】
地域の高齢者・学生の移動手段として利用されており、年間利用者数は目標463人(1便あたり1.2人)に対し630人(1便あたり1.2人)であった。

【八千代線】
地域の高齢者・学生の移動手段として利用されており、年間利用者数は目標4,790人(1便あたり3.8人)に対し5,183人(1便あたり3.2人)であった。

【戸蔦線】
地域の高齢者・学生の移動手段として利用されており、年間利用者数は目標3,759人(1便あたり3.1人)に対し4,108人(1便あたり3.8人)であった。

7)事業の今後の改善点

【帯広市街地便・大正地区内巡回便・八千代線・戸蔦線】
地域で開催される会合などにおいて、参加者とのコミュニケーションを通じたニーズの把握や利用促進を図るなど、利用者増加に向けた取り組みを継続して実施する。

8)地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄